

令和4年火災・救急概況

南消防署
1月1日～3月31日

1 南区火災・救急状況

区分 \ 年別	令和4年	令和3年	増△減
火災件数	11	14	△3
火災種別			
建物	8	11	△3
林野	0	0	0
車両	0	0	0
船舶	0	0	0
航空機	0	0	0
その他	3	3	0
焼損床面積 (㎡)	36	78	△42
死者 (人)	0	1	△1
負傷者 (人)	1	0	1
主な火災原因			
放火(疑い含む)	4	4	0
たばこ	2	4	△2
配線器具	1	0	1
電気機器	1	0	1
その他	0	0	0
救急出場件数	3,615	3,013	602
救急種別			
急病	2,609	2,113	496
一般負傷	635	569	66
交通事故	118	108	10
その他	253	223	30

2 横浜市火災・救急状況

区分 \ 年別	令和4年	令和3年	増△減
火災件数 (件)	181	231	△50
焼損床面積 (㎡)	1,830	5,483	△3,653
死者数 (人)	7 (1)	11 (0)	△4
負傷者数 (人)	30	41	△11
救急出場件数 (件)	57,588	46,607	10,981
救急種別			
急病	40,644	31,692	8,952
一般負傷	10,528	8,707	1,821
交通事故	2,012	2,067	△55
その他	4,404	4,141	263

* 死者数欄()内の数値は、放火自殺者の内数

3 行政区別火災・救急状況

区分	年別	火災			救急		
		令和4年	令和3年	増△減	令和4年	令和3年	増△減
行政区別件数	鶴見	18	13	5	4,288	3,422	866
	神奈川	13	11	2	3,499	2,902	597
	西	14	10	4	2,189	1,719	470
	中	16	27	△11	4,086	3,528	558
	南	11	14	△3	3,615	3,013	602
	港南	12	23	△11	3,514	2,733	781
	保土ヶ谷	7	13	△6	3,237	2,651	586
	旭	13	15	△2	3,827	3,234	593
	磯子	6	10	△4	2,683	2,142	541
	金沢	7	11	△4	3,133	2,640	493
	港北	13	19	△6	4,483	3,671	812
	緑	4	6	△2	2,585	2,091	494
	青葉	8	13	△5	3,550	2,725	825
	都筑	6	10	△4	2,432	1,798	634
	戸塚	14	8	6	4,118	3,415	703
	栄	7	5	2	1,840	1,475	365
	泉	9	12	△3	2,507	1,864	643
	瀬谷	3	11	△8	1,993	1,567	426

4 連合町内会・受持消防団別火災件数

連合町内会名	火災件数	受持消防団
太田東部連合町内会	0	1分団
太田地区町内連合会	3	
寿東部連合町内会	1	2分団
中村地区連合町内会	1	
蒔田連合町内会	3	3分団
お三の宮地区連合町内会	0	
堀ノ内睦町連合町内会	1	
井土ヶ谷地区連合町内会	0	4分団
北永田地区連合町内会	0	
永田みなみ台連合自治会	0	
本大岡地区町内会連合会	0	5分団
	0	
大岡地区連合町内会	0	6分団
別所地区連合町内会	1	
南永田・山王台連合町内会	0	
六ツ川地区連合自治会	0	
六ツ川大池地区連合自治会	0	1～6分団
連合未加入自治会、その他	1	
合計	11	

5 南消防団受持地域別火災件数

分団名	発生件数 (件)
第1分団	3
第2分団	2
第3分団	5
第4分団	0
第5分団	0
第6分団	1
合計	11

※本年数値は速報のため、変更することがあります。また、表は前年同時期との比較です。

かわら版（4月号）

発行者：南消防署

新たな体制でみなみを守る

日時：令和4年4月1日（金）

内容： 令和3年4月1日に横浜市消防局へ入庁した8人の若手職員が、1年間の初任基礎教育を経て、令和4年4月1日に正式に南消防署に配属されました。

コロナ渦ということで、常に感染防止への留意しながらの教育になり、思うようにいかないこともありましたが、同期や先輩職員に支えられ、消防訓練センターでの基礎教育及び南消防署での実務教育を通して様々な知識・技術を身につけました。

この4月から新たな若い力として、南消防署及び大岡消防出張所にて勤務をしています。

二係

今後も引き続き訓練を重ね、成長していけるよう頑張ります！

一係

1日も早く仕事を覚え、南消防署に貢献できるよう頑張ります！



4月1日から南消防署に正規配置になった8人の職員

～ 3.11 から 11 年 ～ 地震への備えはできていますか？

2022年3月16日（水）の23時36頃、福島県沖を震源とした最大震度6強の地震が発生し、横浜市内でも最大震度4を観測しました。

宮城県や福島県での地震ということもあり、東日本大震災を想起された方も少なくないのではないのでしょうか。2011年3月11日の東日本大震災から今年で11年が経過し、震災直後に比べて、災害の記憶が風化し、防災に対する意識の低下が懸念されています。

地震はいつ発生するかわかりません。いざという時に自分や大切な人の命守れるように、災害への備えについて、いま一度考え、できることから始めましょう。

もしも、大きな地震が発生したら…

★ まずは身の安全を第一に！

慌てて外へ出ると危険です。揺れが収まるまで机の下など安全な場所で待機して下さい。また、散乱したガラスなどでけがをしないよう注意しましょう。



★ 火元の確認

揺れが収まってから、慌てずに火の始末をしましょう。



★ ブレーカーを OFF に！

発災直後及び避難時は、通電することで火災が発生するの恐れがあるので、電気器具や配線の安全が確保できるまでブレーカーは下げておきましょう。



→地震の時に自動でブレーカーを OFF にしてくれる『感震ブレーカー』の設置をおすすめします。